
味噌汁の作り方

楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

味噌汁の作り方

【Nコード】

N5772R

【作者名】

楓

【あらすじ】

紗代は中学3年生。つまり受験生。

今日は合格発表の日。受験した高校に行き

自分の受験番号を確かめに行った。

それが狂気の始まりだった……

インターホンが鳴り、母がリビングから出ていった。玄関の扉が開く音。話し声がどんどん近づいてくる。

「……先生がいらっしやっただわよ」

リビングの扉を開けた母の後ろには、私のクラスの先生がいた。

二人はテーブルを挟んで座り、先生が私のほうを向いて言った。

「紗代さん……何て言えばいいか分からないけど、あまり落ち込まないようにね」

先生の方が私より落ち込んでいませんか？

そう言いたくなかったが我慢した。

今日は高校受験合格発表の日。そして、合格者登校日。

三十分前、私は受験した高校に行き、自分の受験番号があるか見てきた。

徹夜で勉強を頑張った日があった。

寝ようとしても勉強という言葉が頭から離れず、参考書を読みながら朝を迎えた。

昼休みや放課後を使って、分からないところを教えてもらったりもした。

それなのに私の番号はなかった。周りの受験生は笑ったり、抱き合ったりしている。私はその人達を視界から消した。

帰り道、私と母は一言も言葉を発さなかった。

「先生、遅かったじゃないですか。私見せたいものがあるから早く来て欲しいって思ってたんですよ」

そう言っただけ私は台所へ行き、包丁を手に取った。それを後ろに隠しながら、母と先生に近づいた。

「私、高校生になったら自分で弁当を作ろうと思ってたんです。その為に、包丁でいるんなものを切りました。そうそう、朝ごはんも作れたらと思っただけ味噌汁の作り方もだいぶ上手になっただんですよ」

私は母の後ろに立ち、首と胴体を切り離した。首がごろりと落ち、切り口からは赤い汁が噴水のように出ている。

「……っ、さ、紗代さ……な、なに、何を……」

先生は驚いているみたい。私はただ味噌汁を作ろうと、『材料』を切っただけなのに。

「先生、見ててくださいね。おいしい味噌汁を作りますから」

先生は立ち上がるうとした。でも、できなかつたみたい。私の『材料』の切り方に驚いたのかな？ 私って豪快なのが好きなんだよね。

私は台所に材料を持っていき、まな板に乗せて小さく切った。切るたびに赤い汁が出て、私の全身を赤に染めた。

先生を見ると、気絶していた。もしかして先生は味噌汁が嫌いなんだろうか？ それでも私は味噌汁しか作れないからごめんなさい、先生。

そう心の中で呟き、作業を再開した。

小さい鍋に水をたっぷり入れたけど、材料を入れるとすぐに赤くなった。まあいいかと思い、火をつけた。

私の味噌汁に味噌は必要ない。だから私はただグルグルとかき混ぜていた。

「先生、出来ましたよ。ほら、おいしそうでしょう？」

先生を起こして、作った味噌汁を見せた。

先生は地獄でも見たかのような顔をした。そしてまた気絶した。

「うーん……こんなに大きな『材料』が目の前にあるのに、それを使わないのはどうかってものよね」

私は新しい料理を作ろうと、目の前の『材料』に包丁を突きたてた。

(後書き)

キーワードにグロいとかホラーとかありますが
あんまり気にしないでください。

そこまでグロくないし、ホラーでもない気がするんです……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5772r/>

味噌汁の作り方

2011年10月7日22時15分発行